アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.176/2021 年 9 月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第176号をお届けします.

【１】 一種研開催報告

一種研が9月9日～10日に開催されました. 本来は高知県立県民文化ホールを現地とするハイブリッド開催の予定でしたが, またもや完全オンライン開催となりました. 久しぶりの四国を楽しみにしておりましたが残念でした.

今回は, マイクロ波研究会（MW）とアンテナ・伝播研究会(A・P)との共同開催でした. チュートリアル講演1件, IEEE AP-S Kansai Joint Chapter特別講演1件を含む19件の講演がありました. 一般講演はMW研6件, AP研11件でした.

チュートリアル講演では京都工芸繊維大学の上田哲也先生より,「電磁メタマテリアル共振器とアンテナ応用」という題目で講演いただきました. 前半はゼロ屈折率と0次共振の動作原理等について, また後半は非相反CRLH線路のメカニズム, およびビーム走査アンテナやOAM通信への応用など大変興味深い研究内容を紹介いただきました.

特別講演では, 高知高専の今井一雅先生より,「木星電波観測技術実証衛星KOSEN-1について」という題目で, 衛星開発や木星からの電波観測についての高専での取り組みを紹介いただきました. 実際に高専生の手により工夫しながら衛星を設計・製作しており, 若い人材の育成に大きく貢献されている様子がよくわかりました.

【２】企業学生交流セッションチュートリアルワークショップのご案内

2021年10月のアンテナ・伝播研究会において開催される「企業学生交流イベント」の一環として, 基礎的内容に重点を置いた「チュートリアルワークショップ」を開催致します. これは「基礎講座」の続編として学生および企業研究者のスキル向上を図ること, また, 学生企業間の交流を一層加速させることを目的としています. 本ワークショップに参加される方は, 是非,「企業学生交流イベント」と併せてご参加ください.

【日時】 2021年10月6日 10:15～16:45 ＠オンライン開催

【受講定員】 150名（先着順）【受講申込み期間】 2021年9月1日～ 9月24日

【受講料】なんと無料！

【講義内容・講師】

◆ 電磁界シミュレーションの実際（防衛大 道下尚文先生）

◆ 移動伝搬シミュレーションの基礎（東京電機大 今井哲朗先生）

◆ 企業における研究開発の最前線（構造計画研究所 吉敷由起子様, パナソニック 小柳芳雄様）

詳細は→ https://www.ieice.org/cs/ap/event/student_industria/

【３】ICETC2021開催のご案内

2021年12月1日から3日まで, IEICE通信ソサイエティ主催の国際会議Intenational Conference on Emerging Technologies for Communication 2021（ICETC2021）が開催されます. 本会議では, 幅広い分野からの投稿・発表・議論を通して,「専門領域を超えたシナジー効果」「研究領域の拡大」「若手研究者の育成」を目指しています. 口頭発表とポスター発表の場が設けられ, それぞれにおいて優れた発表者へ賞が授与されます.

投稿締切が2021年9月30日まで延長されていますので, 投稿をご検討ください.

詳細は,「ICETC2021」で検索いただくか, 下記をご覧ください.

https://www.ieice.org/cs/icetc/index.html

【４】 通信ソサイエティ研究会実施状況

近年の電子情報通信学会通信ソサイエティの開催状況を下表に示します．コロナ感染が広まる前は，年間開催件数140回程度，発表数2700件程度参加者6千～8千人程度でしたが，2020年の発表数は2割減という状況です．ただし，参加者は例年と同程度です．オンライン開催がほとんどとなり出張を伴わないため，聴講参加はしやすくなったと推察されます．2020年から現地とオンラインを併用するハイブリッド開催が行われるようになりましたが，通算わずか6回でありほとんどは完全オンライン開催となっています．なお，2021年のハイブリッド開催1回は，AP研の城崎開催でした．

現状では，全国のどこかで緊急事態宣言が発令されていればハイブリッド開催はできないルールとなっていますが，若干緩和する方向で議論が進められていること，およびワクチンの接種率向上を考えると，今後，ハイブリッド開催の頻度が増加するものと予想されます．是非，現地で実りあるディスカッションを交わしたいものです．

※AP研関連の活動状況は次回お送りします．

2021年度通信ソサイエティ研究会実施状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	19年比	18年比
21年	開催回数	6	15	9										30		
	内ハイブリッド	1												1		
	発表数	50	215	114										379		
	参加者数	251	895	581										1727		
20年	開催回数	5	8	12	14	9	6	11	16	9	19	5	16	130	94%	88%
	内ハイブリッド				1		1	1	2					5		
	発表数	48	87	123	157	91	87	155	262	101	306	69	431	1917	73%	68%
	参加者数	200	377	563	720	496	388	497	1157	709	977	203	489	6776	110%	80%
19年	開催回数	8	14	9	15	10	5	12	19	9	18	5	15	139		
	発表数	99	235	134	232	176	51	251	329	155	318	109	531	2620		
	参加者数	326	740	424	881	572	206	652	861	351	867	275	0	6155		
18年	開催回数	8	16	11	14	10	6	13	20	7	20	5	17	147		
	発表数	92	251	138	358	135	94	270	408	118	357	81	531	2833		
	参加者数	397	822	460	1020	528	256	680	1221	367	1072	348	1286	8457		

【５】 副委員長の戯言

最後にやわらかい話題をお送りします．

親しい間柄の方にメールを送る際に，顔文字をいれて表現を和らげることはよくあるかと思います．私もよく使っています(^^)v．ただ，こんな顔文字を使うのは，最近は中高年だけらしいと，先日テレビで話題になっていました(-.-);．　LINEなどSNSのメッセージであれば，😊や😭の類であればいいかと思っていましたが，これも今やあまり使われないそうです．

また，メールの文章はニュアンスが伝わりにくいので，顔文字と同じように文末に(笑)を入れることもあるかと思います．これも，時代とともに変化していて，(笑)→(爆)→(草)→(www)などと変化しています．私には最後の（www）など送られてくると，意味が分かりません(笑)．言語は常に変化するもので「最近の若者は言語が乱れている....」などと言わず，新しい文化になるべくついていくように心がけようと思っています．

〈問い合わせ先〉
アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長（6月より）　　藤元美俊　（福井大学）
E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org（AP研執行部のメールアドレス）
AP-NET：AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて
AP研HP：https://www.ieice.org/cs/ap/